

(別添4)

【久米島町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末とクラウドツールの利用により、データ利活用による個別最適な学びと協働的な学びを充実するとともに教師の負担を軽減する。各学校長のリーダーシップの下で教育DXを推進し、学習履歴（スタディ・ログ）、健康診断情報等のデータ利活用により、特別支援教育に対しても同様に支援を行い、全ての子供たちが適切な教育を受けられる環境を整備する。一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログかといった「二項対立」に陥らないことに留意しつつ、教育DXを推進する。

2. GIGA第1期の総括

令和3年度の1人1台端末の本格活用開始以降、classroomや共同学習ツール等の利用を通して、校内での端末活用の促進を進めてきた。また、夏休みや冬休み等の長期休業期間を中心に、端末の持ち帰りも実施することで、自宅でのドリル学習やオンライン学習に取り組んできた。併せて、夏季休業を活用し、教育委員会主催による教員向けの各種アプリケーションの研修や情報モラル・著作権の研修等も実施することで、教員のICT活用指導力のスキルアップも図った。

GIGA第2期においては、Googleのダッシュボード機能等も活用しながら、教育データの利活用も進める予定である。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末利活用の前提として、GIGA第2期における端末の整備・更新により一人一台端末の環境を引き続き維持する。また、引き続き端末やアプリケーションの利活用研修の積極的な実施と、それらの活用により、1人1台端末を文房具として毎日使う環境の構築を目指す。

また、授業において児童生徒が、調べたり考えをまとめ発表したりする場面を積極的に設定することや、教職員と児童生徒、児童生徒同士がClassroomなどのツールを活用し、常時連携や、やり取りができる環境を整備する。

特別支援教育においては、特別支援教育に特化したアプリケーションの継続した活用や、Google Meetなどのオンラインツールを活用することで、障害のある児童生徒や合理的配慮を要する児童生徒等、すべての児童生徒に公平な学習の機会を確保する。